

# 大島紬光輝性緋の研究

企画支援部奄美市駐在 ○徳永嘉美

## 1. はじめに

国の伝統的工芸品に指定されている本場大島紬は、日本人の生活様式の洋風化に伴って徐々に和装需要が衰退し、減産をしいられてきている。そこで、これまで培った伝統技術をもとに大島紬の多様化に向けて研究を行った。今回は緋に着目し、これまで地味を売りにしていた大島紬の緋配色法を改めて「並置加法混色」の導入を図り、光輝性緋によるやたら織り大島紬1点、白大島紬2点、泥大島紬2点を試作することができた。試作の一部を小物への転用を試みると同時に、あらためて小物用として金糸入り絹糸、光発色繊維、孔雀羽入り繊維等を活用する光輝性緋素材を開発し、これらを組み合わせることで小物（バッグ）を試作したので報告する。

## 2. 研究概要

### 2.1 並置加法混色法の検討

現在の大島紬における緋配色法を分析してみると、緋に1色が加飾され地へちりばめる手法であるため、背景色である地色の白あるいは黒との対比が先に優先される。この白と黒の中間色を介することで配色は調和しやすくなるが、緋と緋の距離があるため色相対比が弱められ地味な緋表現となっている。これに対して派手な緋を得ようとした時に、色彩は直接色相対比することで輝度が高まること、そして染め糸の経糸と緯糸の折り目が細くくなればなるほど、布の表面が明るく見える並置加法混色の活用が考えられ、この手法を大島紬の緋配色法に応用した。緋は経と緯の交差で構成されているので、経緯の色違いで緋を多色化し直接色相対比を行った。配色は光の輪である色相環8色のグラデーションを使用することで、色の同化と美的効果をも図ることとした。使用した染料データを表1に示す。

表1 使用した染料データ

色	染料名	濃度
R	アンスラセンレッドGN	0.3%
YR	スプラノールオレンジG	0.3%
Y	スマライトスープライエローR	0.3%
GY	アンスラセンプリリアントグリーンGN	1.0%
G	アンスラセンプリリアントグリーン3GL	0.2%
B	カヤノールミーリングターキスブルーG	0.2%
P	ポーラプリリアントバイオレットBL180%	0.1%
RP	スプラノールプリリアントレッドB	0.1%

### 2.2 光輝性緋大島紬の試作

- ① 15.5算やたら織り大島紬：予備試験として試作するもので、背景色黒において緋1本に色相環8色の流れで経緯加飾し、緋調整を行わない織り方で試作し、色の干渉による光輝性を観察した。
- ② 15.5算7元越し式白大島紬：背景色白において、地糸14本間隔の蚊緋のみでデザイン構成し、緋糸1本に1色ずつ加飾し色相環8色の流れで配置し、経緯緋の交差で多色入り緋を作成した。
- ③ 15.5算7マルキ式白大島紬：背景色白において、緋間隔の粗密で並置加法混色による輝度効果を確かめるためのデザインとし、さらには市場への導入も狙って試作した。
- ④ 15.5算7マルキ式泥大島紬：背景色黒において、③の試作と同様の効果を狙って試作した。
- ⑤ 15.5算7マルキ経緯総緋式泥大島紬：背景色黒において、並置加法混色による最も緋の輝度が高いことが予想される経緯総緋と他の緋と比較できるデザインとして試作した。

### 2.3 光輝性緋素材の試作

- ① 金箔入り絹糸の活用：15.5算640羽（1280本）の泥染めした糸を経糸として、緯からグレーに染色した金箔入り絹糸を織り込んで緋布を試作した。
- ② 光発色繊維の活用：帝人ファイバー株式会社が開発した光発色繊維（モルフォティックス）と泥染め糸を交織し、輝度性や風合い等その効果を確認した。

- ③ 孔雀羽入り繊維の試作：孔雀羽と絹糸を撚糸し輝度のある繊維を開発する目的で、専用の撚糸機を考案し孔雀羽入り繊維を開発した。

## 2. 4 小物（バッグ）の試作

光輝性緋素材（金箔入り絹糸・大島紬の緋糸）を活用し、デザイン織でバッグを試作した。

## 3. 試作結果

### 3. 1 光輝性緋大島紬

- ① 15.5算やたら織り大島紬では、色の干渉により玉虫調の効果が得られた。(図1(a))
- ② 15.5算7元越し式白大島紬では、緋間の距離があるため緋と緋の色相対比は起きなかったが、経緯と色を違えたので緋の中だけでのやんわりとした色相対比が起こり、新規性のある多色入り緋として評価され2社が市場へ導入した。(図1(b))
- ③ 15.5算7マルキ式白大島紬では、緋密度の高いサベ緋で並置加法混色が最も発現した。(図1(c))
- ④ 15.5算7マルキ式泥大島紬では、背景色が白の時よりも並置加法混色の効果がより高い結果となった。(図1(d))
- ⑤ 15.5算7マルキ式経緯総緋泥大島紬では、予想したとおり経緯総緋が一番輝度が高かった。経緯総緋の中心部分は、明度が上がり彩度が下がって白色に近づいた。(図1(e))

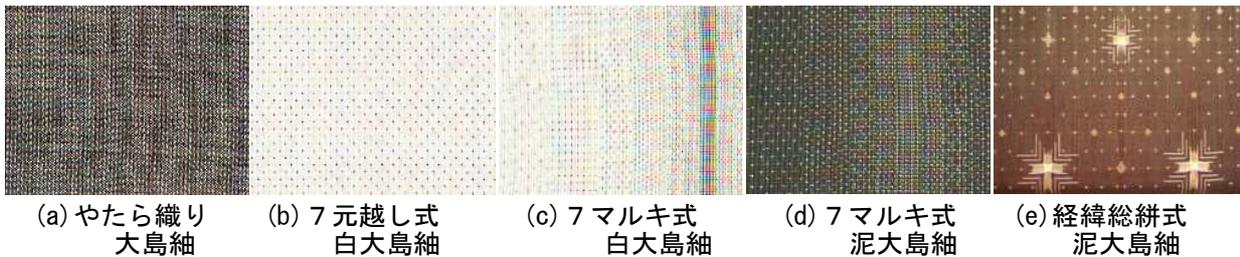


図1 光輝性緋大島紬

### 3. 2 光輝性緋素材

- ① 金箔入り絹糸による素材(図2(a))では、白糸より染色した方が金箔が効果的に煌めいた。
- ② 光発色繊維と泥染め糸の交織(図2(b))では、これまでにない光が干渉して煌めきのある泥染め布が開発できた。



図2 光輝性緋素材

- ③ 孔雀羽入り繊維(図2(c))では、輝度性は期待外れであったが、自然な色を醸し出す緑色の糸が開発できた。

### 3. 3 小物（バッグ）

帯の製造技法(図3(a))と、平織と花織を用いた生地を用いて(図3(b))バッグを試作した。



図3 バッグの試作品

## 4. おわりに

大島紬において、経緯緋の色を違えて色相対比する「並置加法混色」法の導入を図ることができた。この手法で、特に経緯総緋部分で最も輝度が高い結果となった。また、小物用光輝性緋素材として、絹にこだわらず金箔入り、光発色繊維、孔雀羽等の活用でオリジナル小物が試作できた。今後、他の手法での光輝性緋の研究を検討したい。